

7月記者懇談会

令和元年7月25日
午前11時00分 大会議室

出席者：信濃毎日新聞、みのわ新聞、伊那ケーブルテレビ
事務局：社本、荻原

町長月間予定 総務課

月間行事予定の説明

町の主なトピックス（担当課PR分）

・（8/31）夏の高原サイクルイベント

（商工観光推進室 観光係）

夏の萱野高原で爽やかな風を感じながらサイクリングを楽しむイベントを今年も開催します。ゲストガイドと走る体験ツアーや萱野高原コースの走行会が行われます。また、メイン会場では、サイクルスタンドのお披露目やキッチンカーによる飲食の販売等が行われます。事前申込みが必要で、8月20日（火）締め切りです。



・（8/31）第22回日本の太鼓 in みのわ

（文化スポーツ課 生涯学習係）

毎年恒例の日本の太鼓 in みのわが今年も町文化センターで開催されます。今年40周年を迎えるみのわ太鼓保存会をはじめ、県内の太鼓の団体が迫力ある演奏を披露します。全席指定で、入場券を8月1日（木）午前10時から町文化センターで配布します。



・町長への手紙、まちづくり地区懇談会について（企画振興課 まちづくり政策係）

〈町長への手紙〉

町政に関する意見や提案等を町民の皆さんから広く聴き、町政に反映させるとともに、寄せられた意見をデータベース化し情報共有を図り政策の立案や改善につなげ、職員の政策形成能力の向上等につなげるための「町長への手紙」を今回初めて実施します。全戸配布や公共施設への設置したチラシ、また、ホームページやメール等で提案を受け付けます。原則全件回答する予定です。

町長コメント

住民満足度を上げるという問題は、なかなか難しいところがありますが、広聴の取組みを増やすことが1つの方策だと思っております。その1つとして今回初めて、町長への手紙を実施します。要望や提案のたらい回しは、最近は無くなってきていると思いますが、その場しのぎになったり、問題が先送りになってしまったりといったケースが無いわけではなく、こういったことが、町民の行政参加を遅らせてしまう原因になっていると思えます。そのため、今回のような取組みを重ね、町民の皆さんが行政へ参加をし、回答をもらうことで、納得感をえられることにつながればと思っています。満足度を上げることももう1つ、必ず回答をさせることで職員の政策形成能力を高めることにつながると思っています。苦情ばかりと思うのではなく、問題の本質を見極めるといったことを考えてほしいと思っています。

記者) チラシは、広報紙に折り込んでいる以外にはどこで入手できるか。また、意見の回答方法は。

⇒チラシについては、町公共施設（文化センターや図書館等）や大型店、公民館等に設置します。また、回答方法については、基本的に郵便できたものは郵便で、メールについてはメールで回答します。

〈まちづくり地区懇談会〉

別紙資料の日程で、各区においてまちづくり地区懇談会を開催します。各地区の課題や住民からの意見、提案等を広く聴くことにより町政運営に反映すること目的に実施します。

・みのわファンクラブアプリについて（みのわの魅力発信室 広報・交流推進係）

みのわファンクラブのアプリ版を構築しています。会員証がデジタル化され、協力店舗で受けられるサービスのクーポン配信や来店時のスタンプ機能がご利用いただけます。また、初回アプリインストール特典としてオリジナル QUO カードもプレゼントします。アプリの公開は8月15日です。

町長コメント

伊那弥生ヶ丘高校の野球部の頑張りには、上伊那地域とすれば嬉しいニュースでありました。同様に、箕輪中学校の生徒の皆さんも、女子バスケット部を中心に頑張ってくれていて、8月の北信越大会に向けて、町長応接室に入りきらないくらいの生徒が報告にきてくれて、頑張ってもらいたいと思いました。町民の皆さんが元気をいただけるので、活躍を期待しています。

「にこやか号について」

買い物弱者対策として、(有) 泰成運輸さんに運営していただいていた「にこやか号」が休止をして時間が経ちます。今後の在り方について検討を進めてきましたが、再開については、泰成運輸さんとしては断念するという結論となりました。町としてもこの問題について、泰成運輸さんのにこやか号を使用して引き続き実施することは難しいという判断に至りました。ですが、買い物弱者や通院の問題、高齢者の免許返納とその後の対応など、今後も検討が必要になってきます。

今回新たな施策に踏み切れなかった理由として、本当に困っている買い物弱者を民生委員さんに調べてもらったところ、50 数人だったという結果があります。この数字を商業ベースで考えた時、施策を進めるには非常に難しいという判断になりました。町内の業者さんやスーパーで対応ができないか打診もしましたが、当町の現在の状況だと難しいということや単独で行うことは厳しいという結論に至りました。今後は、違った方法で施策を進めるかターゲットを絞った方法を行うのか、福祉施策としての意味合いで考えるのか等、もう少し議論を行い、当初予算になんらかの形で反映したいと思います。いずれにしても、自動車という手段が無く、買い物に行けないという方がいるということは事実なので、こうした皆さんに対する対応をできるだけ早期に実施していきたいと思います。

にこやか号の車両をどうするかという課題もあり、所有としては泰成運輸さんの持ち物になりますが、国や町の補助金を使用して購入した経緯がありますので、町が買い上げるということも考えています。議会とも相談して、どういった方法があるか検討していきたいと思います。耐用年数もあり、まだまだ長く活用できそうなので、様々な活用方法も考えられますので、検討をさせていただきたいと思います。